令和５年度第２回　北海道中山間地域等直接支払制度検討会（現地調査）
【意見交換会内容】

幌加内町
（１）日　時　令和５年１０月１６日（月）１３:５０～１５：００
（２）場　所　幌加内町・町民研修センター
（３）出席者　検討会５名（岡田様、近藤様、志村様、丸山様、山梨様）
集落協定代表２名、町３名、道協議会２名、
上川総合振興局３名、農政部農村設計課５名

［開会及び出席者の紹介］（道）
［町勢及び農業概要の説明］（町）
［意見交換］（進行：山梨座長）
（検討会座長）
・中山間地域等直接支払制度の交付金について、実施状況あるいは取組の状況について現地視察をし、場所を認識できました。委員から集落、役場に対する質問があればお願いしたい。
（検討会）
・集落協定をどのような形で作成しているのか方法を伺いたい。担い手農地の集積や今後数年間の農地利用計画を作成したり、あるいは新たな担い手を確保していく必要がある等、集落協定の作成過程で誰の農地をどのように利用していくかという計画づくりの取組実態を農家さん、役場から教えていただきたい。担い手が高齢化し農地が使われなくなっていく、そのような土地を誰がどのように引き受け調整していくのか、どのように推進、交流しながらやっているのか教えていただきたい。
（町）
・役場、農業委員会と話し合いながら進めている。細かいところは決め切れていない。話し合えていない現状がある。
（検討会）
・今後、担い手が減少し、規模拡大していくには難しい問題があるのか。
（町）
・実際、人・農地プランであったり地域計画を具体的に進めていかなければならないと思い、昨年、農家さんに一斉アンケート調査を実施した。これから中身を精査していかなければならない段階である。
（検討会）
・将来、どのような方向性、高齢化する中で、自分の農地をどうしたいという意向が見られるのか。
（町）
・高齢化が進んでる部分があり、5 年 10 年の間に離農を考えている方もいる。今後、若い農家さん、担い手、後継者をつなげていくような取組や話し合いを進めていかなければ

ならない実感はある。
（検討会）
・産業課長が、農業委員会の事務局長ということ。農地利用が問題なく調整されているのか。
（町）
・現状はそばを作りたい生産者が多く、耕作放棄地は幌加内町にはない状態である。今後においても予想としては耕作放棄地はなく、国の制度で畑地化したり、水田のままやめる方、畑地化してやめる方両方いる。土地を地域で守ることで、斡旋委員会で声掛けすると手を挙げる方がいてうまくマッチングしている。今後は、人・農地プラン、地域計画の図面を作らなければならない。地域に入って、土地を減らしたい増やしたい方をうまくマッチングしながら、問題なく行きそうかなと思う。逆に、欲しいという方が多すぎて競合することがあるかもしれないが余ることは今のところ想定していない。一部の生産者の中では、新規就農者にしか売らない等、売り手の希望もあり新規就農者を見つけるのが苦労すると思う。農業委員会としても、いきなり来た方に農地を売れないので見定めながら適正な方に売却する。新規就農して、幌加内町の地元の人口も守りつつ高齢化もなくす形でマッチングするのが課題であり、今後検討していかなければならない。
（検討会）
・農家さんからすると、農業委員会や町が間に入り調整してくれるので、農地利用がスムーズにいくということ。
（町）
・地域、地域に農業委員がいる。高齢の方にあと何年やるかなど普段されないような話をしている。それが町の農業の改良に繋がっていくのかと思っている。
（検討会）
・集落を越えている中で農地利用計画を作ることに問題はあるか。集落と町全体との調整の関係になると思うが。
（町）
・団地化してまとまった農地を持つことが効率化であると思うが、地縁者がいる関係から住む場所は違うところで、農地もまた 10km も離れている方も相当数いる。そういう所をうまく解消していければという（町の）希望はあるが、農地を交換する等制度的には難しい面もあるので、今のところは団地化を推奨したい。
（検討会）
・マッチングするとしたら規模を拡大する方が限られているので、当然飛び地になっていかざるを得ないという面も実際問題としてあるので、大変と思うが。
（町）
・斡旋方法は、まず地域で下ろし誰もいなければ少しずつ増やしていく手法をとっており、地縁者でもともと持っている農家の方の周辺を団地化する声掛けをしている。本人が広げたいという方もいればこのままでいいという方もいるし、年齢の要件の方もいてうまく調整しながらと思っているが苦慮する点でもある。
（検討会）
・マッチングする上で一番苦労するのはどういう点か。

（町）
・今のところはまだ苦労まではいっていない。募集するとある程度手を挙げる方もいるので。今のところはうまくいっている。
（検討会）
・肥料の高騰、原油も高く農家さんも相当大変だと思う。その中でも手を挙げる農家さんはどのようなタイプか。意欲を持って引き受ける感じか。
（町）
・国に依存するわけではないが、制度がいろいろとあり、若手もいてそばを作ったり米を作ったり意欲はあると思う。75 歳以上の後期高齢者の方も農地を増やしたいと手を挙げることがある。
（検討会）
・農家さんの立場としてどうか。
（集落代表）
・農地が出てきたら作りたいという方はいる。将来を考え土地が欲しい大きくしたいと考える方が多いと思う。
（検討会）
・区画的には機械作業をする上で障害にならない感じか。１反２反もあるという話も聞いたがその辺はどうか。農地の質等。
（集落代表）
・肥料の高騰、燃料が高く農産物の売上げを上げるしかない。そのためには、面積を広げるのが一番で、面積を増やそう増やそうとして、経費もそれなりにかかるが売上げもないとというので、ある程度年齢が高くてもそばくらい作れるかなと思い手を挙げる。
（検討会）
・そばは作りやすいのか。手がかからないのか。
（幌加内広域集落代表）
・幌加内は作りやすい。5 町作るのも 10 町作るのも変わらない。
（検討会）
・それで、規模拡大できるのか。
（集落代表）
・作業的にもほぼ機械で終わり期間も 6 月～ 9 月くらいしかないので、機械力は必要だが少々面積が増えてもなんとかできる。
（検討会）
・あとは国の交付金で。
（集落代表）
・直払制度や水活を使いながら。
（検討会）
・水稲の時間的な問題、早く作付けしてその後にそばがくるので、作業的にはスムーズに一年間過ごせるということ。今言った経費の問題としては、そばの方が安上がりでうまく受け入れしやすい。土地をそばに転換するのはどういった動機か。
（集落代表）

・一番は人手不足。圧倒的に水稲の方が手間もコストもかかる。
（集落代表）
・水稲も移植の場合は面積が増えても効率化しない。育苗期間は 10 町でも 20 町でも比率が同じ。単純に時間が増えるだけで育苗はクリアできない限界がある。その点そばは大きなトラクターがあればできるので、そばか米かというとそばの方が伸びやすい。
（検討会）
・適地である農作物の場所柄もあるが、交付金額の個人配分比率が 90 %と高いのに対し、共同取組の方については、生産活動に関する農地法面の定期的点検、水路の管理、泥上げ、農道の草刈りが行われている。個人配分はどのような経費になっているのか。そばの方が作りやすいというところに投資しているのか。
（町）
・個人配分も傾斜地ということもありほぼ水田が対象面積となっている。自分の農地は自分で守る形をとっている。常日頃から、草刈りなど水稲が育つよう取組みをして燃料費に充当している。個人毎で農地を守るための取組みということで。
（検討会）
・色々経費がかかるということで、水田の方が作業量が多いかもしれなく、個人的な配分が必要かもしれない。地図を見た時に、上幌加内地区と隣の地区の間に昔はひとつのエリアとしてあるが、抜けていったのは作業効率を解消できなくシステム（中山間直払）から抜けたのか。
（集落代表）
・抜けたのではなく対象地が減った。対象地として 10 年前に見直しがかかり、基盤整備して傾斜地が減り、対象地として該当しなくなった。
（検討会）
・関連して、難しい問題でもある新規就農者を増やすための施策、全国的に問題に直面しているが具体的に案があれば教えていただきたい。
（町）
・幌加内町独自の補償制度もある。２年間続けた場合、受け入れした農家に日当を渡す研修の補助金を出すもの。幌加内町に就農したら 300 万円を奨励金として渡す制度もある。制度的にはあるがアピールしても来ていただけない。過去は年間数件、新規就農の問い合わせは来ていたが、幌加内町は余った土地が無くお断りした。今も実際余っている農地が無いので、予備軍ということで名簿を作り保存している。研修受け入れ先である指導農業士の所で 1 ～ 2 年間研修し、新規就農として農業委員会に認められ就農するのがベストであるというマッチングがある。今後は高齢化もあるので町としても本腰を入れないといけない。今年アンケート調査を実施、結果を新規就農のデータとして押さえながら、電話で新規就農をしたい方とも調整・調査をしていきたい。少しずつ進めていきたい。
（検討会）
・問い合わせは、町内、全道、全国からくるのか。
（町）
・全国からも来る。
（検討会）

・研修制度があることは一定数知られているのか。
（町）
・知らない中で電話が来る。話の中で制度を知っていく。北海道独自の新規就農制度があり登録しながら幌加内町に研修する制度も PR したい。
（検討会）
・ありがとうございました。
（検討会）
・高齢の農家が土地を手放す場合、新規就農でないとだめなのか。
（町）
・その方は新規就農として幌加内町に来られまして、地域の方でも良かったが幌加内町の人口を増やしたいという思いの中で新規就農者に売りたいという。必ず新規就農でなければならないわけではないが希望として。
（検討会）
・公民館は今どういうような使い方をしているのか。
（集落代表）
・それぞれの集落にある。新年会から始まり春の地鎮祭、地域の話し合い、敬老会等年間を通し数回使っている。
（検討会）
・北の方の集落では、何名くらい集まるのか。
（集落代表）
・この集落は戸数が 9 軒。そのうち半分しか農家をしていない。一家総出で参加しても 10 ～ 20 人、年に 7 ～ 8 回集まり、集落委員会などを開く。
（検討会）
・地域のコミュニティ的役割を果たしている。維持管理も含めて。集落であれば、話し合いはあるが、協定が広域化することによって逆に問題や難しいことはあるか。
（集落代表）
・広域になると他の所の実情がわからない。近場のことはわかるが、まさに土地の話など小さな集落の方が話しやすい。情報共有は難しい。
（検討会）
・広域化すれば事務手続きは進むけど、逆に広域化が難しいと言う面も出てくる。
（集落代表）
・小さな集落で 8 ～ 9 軒しかなく、隣に似たような集落があってもそことくっつけるかというとそういう訳にはいかない。昔からの繋がりがあり交流は難しく広域化は難しい。
（検討会）
・同じ集落であれば、高齢化した農家がいたら面倒を見たり気にかけたりするのか。人が少なくなっていくと何が大変なのか。
（集落代表）
・距離も近く、近所なので助け合い情報共有をしたりする。人が少なくなると、町内会長のなり手がいないとか管理ができないなど、高齢者になると集まりも悪くなる。花壇も全戸に声はかけるがなかなか全員が出てこなく、共同作業自体も難しくなり少なめになって

いる。
（検討会）
・ある程度大きいところだど、鳥獣被害とかスケールメリットがあるが、小さい所だと共同作業が少なめになってしまうということ。
（検討会）
・多面との関係はあるか。
（町）
・関係はない。それぞれで管理している。関係している事業もない。
（検討会）
・地区を横断して皆でやる町の活動はあるのか。そば祭りなど有名だが。
（町）
・集まることはあっても、中山間としてのつながりのある事業は現状ではない。そばの一斉管理などは皆でする。
（検討会座長）
・集落代表者から、課題やご意見を伺いたい。
（集落代表）
・共同作業の取組が機能しなくなっている。対象地が 10 年くらい前に減った。全体の傾斜は変わっていないのに、面積が減り疑問がある。うちの近くでもかなり傾斜で田んぼを作っているが対象地が減った。その辺の見直しをしてほしい。
（検討会）
・共同の難しさは、作業性なのか、全員参加が難しいのか。
（幌加内広域集落代表）
・全員に声をかけても、全員参加は難しい。それぞれの経営が大きくなり、機械を持ち作業も自分でやっている中で、共同作業をするという話にはならない。
（検討会）
・協定の作業を行うということで、申請を出すときは集まるのか。
（集落代表）
・申請を出すときはもちろん集まる。
（集落代表）
・共同取組の上手な事例を教えてほしい。花壇などは、子供を連れてきてコミュニケーションになっている。作物だけではなく、地域のまとまりもあり花壇は良いと思う。結びつきが強くなるようなアイディアがあれば。
（検討会）
・全国の事例がホームページで閲覧できる。積極的に活用してほしい。
（町）
・農家さんの話し合いの中で活用できることは自由に決められる制度だが、何をしていいのかわからないということがあるようなので、優良事例を知る機会があれば取り組んでいきたい。
（検討会）
・現地を見せて頂いて、交付金の活用状況ないしは共同取組の状況を説明いただいた。今

後の課題は、情報を知りたい増やしたいということが要望である。こちらも取組活動がどのようになされていて問題点或いはメリットデメリット等、知りたいことがたくさんある。そのあたりで委員から一言を。

（検討会）

・今日の集落のお話を聞いていると、幌加内町の農業は大丈夫と思えるほどしっかりされている。新規就農対策もされているしうまくいっている地域だと思った。

・個人配分の方がそれぞれの農家さんは使いやすいのではないか。共同ですることに満足しているのであれば個人配分で良いと思う。若い人、小学生レベルからここに住んで農業をしたいと思えるような、中堅の人が継続して行けるよう、高齢者の気持ちも主要課題、生産性や収益を実現したい。そばも全国区で十分魅力的だが、そば以外で他に何かやりたいことはあるのか。そば以外で注目さていることはあるか

（町）

・町内の一部の農家が、飼料作物の WCS を作付けし来年から少し面積増えると思う。今年は米もそばも悪い。一つの作物に偏っては影響が多く、出来る限り色々な作物を作っていきたい。

（検討会）

・個人配分が９割近くなっていて、中山間支払が平場地帯の条件が良い所と中山間地との不利な所の格差を埋めるということで下支えしている補助金の位置づけであることを確認した。共同作業は、水稲関係で個人ではできない中山間地の水路の維持管理、皆で利用するような水田稲作の必要なインフラの維持管理は共同でしていかなければならない。

・もう一つ公民館活動、コミュニティを維持するために、制度をある程度活用できているのかと思う。それがあることにより地域農業の将来の姿やいろんな話し合いがし易いということがあると思う。将来的には、そばの産地であるのでもっと派手に PR し、そばを安く売りすぎていると思う。

（検討会）

・若い方が事例集などに興味を持っている、北海道の中山間地の使い方は他府県とは違うので、見やすい形であるとよい。

（検討会座長）

・公民館活動、共同取組に対して遠慮する方が増えている社会現象かもしれない。そこをどうクリアするかが今後の問題である。今どうしても良い方法が見つからない場合はしばらく様子を見るしかない。その際に、全国のデータベースがあるので、集落活動の活性化は中山間事業の大きな課題となっているので一緒に考えてもらえたら有り難い。

［閉会］